

2013 年 1 月

年間活動報告書

2012 年版

外国為替市場発展のために

東京外国為替市場委員会

(Tokyo Foreign Exchange Market Committee)



2013年1月30日撮影

目 次

3 巻頭のことば(星野議長)

5 小委員会報告

15 東京外国為替市場委員会委員名簿(2013年1月30日)

巻頭のことば

東京外国為替市場委員会・星野議長

2013年1月

本日は、市場委員会の年次総会に際して、懇親会を開いて頂き誠にありがとうございます。たくさんの方の諸先輩がおられる中甚だ恐縮でございますが、ご指名頂きましたので、御礼に加えてご挨拶を申し上げます。

先週ロンドンで主要な外銀の関係者と会って参りましたが、久しぶりに円への注目と日本への期待の高さを感じました。黙っていても向こうから意見を求められるというのはそんなにあるものではありません。そんな中で面白いことに気づいたのですが、彼らの中には90年代の半ばごろまでに東京での駐在経験がある人間が何人もいます。あの元気のあったころの日本に優秀な人間が送り込まれていたんです。そういうバックグラウンドがあるからこそ、彼らにとって日本の再生は興味だけではなく、期待感が強いのだと思いました。少し前までは円安というと、JGB暴落、日本売りで円安という意見ばかりでしたが、だいぶポジティブな円安論者が増えてきている感があります。

さてロンドンでは幾つかのトレーディングフロアにもお邪魔しましたが、行き過ぎた悲観論からのゆり戻りで、欧州にお金もどってきている最中でようやくボラティリティも復活し、一年前に比べると大分明るい感じがしました。一方で規制強化への対応には皆苦慮しており、大きな流れとして為替市場は先物取引化していくだろうという見解すら聞かれました。これは非常に大きな市場基盤の変化であります。リーマンショック時も含めてこれまで上手く機能していたシステムを何故変えなければいけないのか。取引所に決済リスク、信用リスクが集中することでよりシステムリスクが拡大することにならないのか。何よりも取引コストの増加と流動性の低下の直接の被害者である事業法人や投資家といったエンドユーザーの視点が欠けていないか。恐らく今後1、2年で決まる清算集中とマージン規制の枠組みの中で、将来の道筋がはっきりしてくるものと思われまますので、市場委員会としても小委員会を用意して議論していきたいと思っております。

一方で我々としては、こうした規制強化の動きを受身でばかり捉えるのではなく、上手く活かし東京市場の活性化へ繋げていくべきでありましょう。欧米やアジアの他市場との関係でバリューポジションをどのように定義するのか。将来世界の市場をリードするような人材が日本に集まり、活躍できるような東京市場となるよう、市場委員会としても積極的に議論し提言をしていければと考えております。

最後になりましたが、日本銀行の皆様には常日頃絶大なご支援を頂きありがとうございます。委員を代表して改めて御礼申し上げ雑駁ではございましたが私のご挨拶とさせていただきます。

以 上

小委員会報告

運営小委員会

I. 委員会概要

- 運営小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下、「本委員会」）の円滑な運営のために、以下の実務的な機能・役割を担っている。
 1. 委員の選任・退任に関わる事項
 2. 役員の改選に関わる事項
 3. 本委員会において議論・検討すべき事項の確認、意見交換等
 4. その他、本委員会の運営に関する事項

II. 活動報告

- 2012年度は、「本委員会において議論・検討すべき事項」として、主に以下の項目について意見交換等を行った。
 1. 各小委員会の活動報告および情報の共有化について
 2. 各国市場委員会との協力および情報交換について
 3. 各国為替市場の動向について
 - ・ 為替取引に係る規制動向についての議論・情報共有を実施
 - ・ クリスマス休暇期間の東京市場の営業時間について、議論および方針の共有
 4. 市場委員会の会計監査について
 - ・ 平成24年会計年度について、運営小委員会にて会計監査を実施

III. 今後の課題

- 為替取引に係る規制動向についての議論・情報共有および対応策の検討
- Code of Conduct（オレンジブック）改訂案の検討
- 継続的な各国市場委員会との情報交換や委員会内での情報共有化の推進

以上

広報小委員会

I. 委員会概要

- 広報小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下、本委員会）の活動を為替マーケットの参加者のみならず、社会に向けて発信することを目的として活動している。主な情報発信手段として、本委員会のホームページに以下のような情報を掲載し、必要に応じ掲載内容を更新している。
 1. 邦文および英文の「委員会議事録」および「年次報告書」
 2. 新委員公募のお知らせやセミナー開催など委員会活動に関する情報発信
 3. 緊急時の市場参加者への情報発信
 4. 「コード・オブ・コンダクト」
 5. 本委員会のメンバー、組織図
 6. 当委員会作成の公表文書

- また、ホームページの運用に関しては、サーバーの見直しやレイアウトの変更など利用者の利便性を重視しつつ、低コストの運用を心がけている。

II. 活動報告

- 2012年度は、以下の点を重点的に実施した。
 1. 「東京外国為替市場における取引高サーベイの結果」の掲載。2012年4月中および10月中の外国為替取引を対象とした第7回および第8回の取引高サーベイの調査結果を作成し、ホームページに掲載した。
 2. 「推奨慣行」のページを新設し、「当委員会が対円NDFに係る下記の取引慣行を推奨することについてご意見・情報の募集のご案内（平成23年12月5日）に対するコメントの結果等について」をホームページに掲載した。
 3. 「店頭外国為替証拠金取引に関するカバー取引状況」をホームページに掲載した。

III. 今後の課題

- 引き続き、当委員会の情報発信・収集のニーズを理解し、適切かつ低コストのホームページの運営を行う。

以上

教育小委員会

I. 委員会概要

- 教育小委員会は、セミナー等の実施を通して、東京外国為替市場に関わる人材の育成や新しい知識の普及に努める役割を担っている。

II. 活動報告

- 日本フォレックス・クラブとの共催で、フォレックス・セミナーを二回開催した。

1. 実施時期 2012年2月20日 18:30-20:30
実施場所 野村証券大会議室 アーバンネット大手町ビル 20階
内容
第一部 「当面の外国為替相場の展望」
講師 植野 大作 氏
UBS 銀行 外国為替部外国為替ストラテジスト
第二部 「2012年の為替相場展望」
講師 高島 修 氏
シティバンク銀行 外国為替部チーフ FX ストラテジスト
2. 実施時期 2012年8月27日 18:30-20:30
実施場所 野村証券大会議室 アーバンネット大手町ビル 20階
内容
第一部 「円高はどこまで進むのか？」
講師 佐々木 融 氏
JP モルガン・チェース銀行 東京支店
債券為替調査部長マネージング・ディレクター
第二部 「紙飛行機理論に基づく為替予想」
講師 池田 雄之輔氏
野村証券 金融市場調査部 マネージング・ディレクター
チーフ為替ストラテジスト

III. 今後の課題

- 現状の外国為替市場のニーズにあった形でのセミナー開催を続けることにより、人材の育成と市場の活性化を支援していく。

以上

法律問題小委員会

I. 委員会概要

- 法律問題小委員会は、東京外国為替市場委員会（以下、「本委員会」）の目的遂行のため、以下の役割を担う。
 1. 外国為替市場その他国際金融市場における取引に関する慣行や行動規範の法律的な諸問題について、議論および意見交換を行う。
 2. 上記 1.について、具体的には、以下の活動を行う。
 - ① 本委員会から調査依頼のあった事項について、小委員会として法的な観点から検討し、見解をとりまとめ、フィードバックを行う。
 - ② 何らかの実務上の問題を想定し、例えば取引の安全性を確保するという観点で、法的な立場から検討し、本委員会に対してベストプラクティス等を提言する。
 - ③ 外国為替市場の取引に関し、本小委員会としての対応が必要となる場合に備えて、研究が必要と考えられるテーマについて、情報収集を行う。

II. 活動報告

- 対円 NDF 取引のフィキシング・レート算出方法の標準化提案について、2011 年 12 月 5 日に実施したパブリックコメント『当委員会が対円 NDF に係る下記の取引慣行を推奨することについてご意見・情報の募集のご案内』に関するフォローアップとして、受領したパブリックコメントの精査ならびに回答案の検討を実施。本委員会承認を経て 2012 年 6 月 27 日付で、『「当委員会が対円 NDF に係る下記の取引慣行を推奨することについてご意見・情報の募集のご案内」（平成 23 年 12 月 5 日）に対するコメントの結果等について』をホームページに公表し、終了した。
- その他の活動について：その他の活動では、足元で Code of Conduct 小委員会のオレンジブック改訂作業の取り組みが加速した状況を踏まえ、年央に『オレンジブック改訂に係る Code of Conduct 小委との協働』を新たに活動方針に加えた。本件については、当小委員会に対して直接の照会・協力要請が無かったことから、Code of Conduct 小委員会、オペレーション小委員会等への参画を通して、各委員が活動支援を実施した。

III. 今後の課題

- 以下のテーマについての議論・研究・検討を中心に活動を行う。
 - ・ オレンジブック改訂に係る Code of Conduct 小委の活動支援・協働
 - ・ その他本委員会から調査依頼のあった事項についての調査・検討

以 上

市場調査小委員会

I. 委員会概要

- 市場調査小委員会は、東京外国為替委員会による「東京外国為替市場における外国為替取引高サーベイ（以下、東京市場サーベイ）」を定期的実施し、海外主要市場の市場サーベイとの情報共有化を行うとともに、その内容について考察を行い、市場委員会の活動に結び付けていく。また、金融環境や市場の質・量の変化に対して、適宜調査活動を行う。

II. 活動報告

- 2012年度は、主に以下の活動を行った。
 1. 東京市場サーベイ
 - ① 「東京市場サーベイ」実施頻度を年2回とし、4月に加え10月分を実施。4月分は7月に公表、10月分を1月に公表。
 - ② 本年度より、報告金融機関数を従来の20金融機関から32金融機関に拡大。
 - ③ 店頭外為証拠金取引に関わるカバー取引に関する実態調査を昨年に引き続き実施。
 2. 外国為替およびデリバティブ取引に関する中央銀行サーベイ
 - ① 「BISサーベイ」に関わる見直し案について、フィージビリティを検討。
 - ② 2013年4月「外国為替およびデリバティブ取引に関する中央銀行サーベイ」（BISサーベイ）に向けた説明会を実施。

III. 今後の課題

- 東京サーベイの調査内容の見直しについて、必要性の有無を検討する。
- 東京外為市場の現状分析と活性化について、取り纏めを実施する。

以上

Code of Conduct 小委員会

I. 委員会概要

- Code of Conduct 小委員会は、東京外国為替市場の円滑な運営のために以下の実務的な機能・役割を担っている。
 1. 主にインターバンク取引における取引慣行遵守状況のモニタリング
 2. 為替市場の変化への対応の指針作り
 3. 新たに取り組むべき課題の認識

II. 活動報告

- 2012 年度は、以下の通り活動を行った。
 1. 本委員会のホームページ上でリリースしている「Code of Conduct 外国為替・資金取引に関わる行動規範（2008 年版）」のメンテナンス
 2. Code of Conduct 改訂作業
東京外国為替市場の現状を踏まえつつ、現行の Code of Conduct に ACI-Financial Markets Association の「The Model Code」を対応させる形で比較検討を行い、現状に即した新しい Code of Conduct の改訂作業を実施（2013 年中の完成を目指す）。

III. 今後の課題

- 現在進行中の金融市場規制に係る議論の推移を鑑みながら、Code of Conduct のアップデートを行う。
- シンガポール・ニューヨーク・香港・ロンドン各為替市場の定める Code of Conduct 並びに ACI-Financial Markets Association の定める「The Model Code」と平仄をとりながら、わかりやすい Code of Conduct を作成する。

以上

オペレーション小委員会

I. 委員会概要

- オペレーション小委員会は、本邦外国為替市場・資金市場（除く国内円）における決済業務に付随する事項を取り扱い、決済業務が円滑に行われるよう案件の検討を行い、東京外国為替市場委員会への提言を行う。

II. 活動報告

- 金融商品取引法一部改正による金利スワップおよび CDS の CCP 利用義務化を踏まえ、NDF を初めとする為替系商品に関する海外 CCP 取引所の情報収集および意見交換を実施。また 2013 年度開始予定の Trade Repository 制度に関する意見交換や、Code of Conduct 改訂に向けての決済関連項目に関する意見集約も進めた。各回の小委員会議題は、以下の通り。

第 1 回 2012 年 5 月 23 日

- ・ LCH、CME、HKEX における FX 取引に関するクリアリング業務の現状について
- ・ Code of Conduct 改訂に向けての方針説明
- ・ Trade Repository に関する意見交換

第 2 回 2012 年 6 月 21 日

- ・ SGX、ICE における FX 取引に関するクリアリング業務の現状について
- ・ 本邦において FX クリアリングを設立する場合の課題整理・意見交換

第 3 回 2012 年 10 月 17 日

- ・ CLS サービスについて今後の展望について（CLS 社からのプレゼンテーション）

第 4 回 2012 年 11 月 28 日

- ・ Code of Conduct 改訂案に係る意見集約

第 5 回 2012 年 12 月 20 日

- ・ Code of Conduct 改訂案に係る意見集約

III. 今後の課題

- 将来の外為デリバティブ取引の CCP 適用拡大を想定し、意見交換や課題の洗い出しを行っていく予定。

以上

BCP 小委員会

I. 委員会概要

- BCP 小委員会は、被災後の東京外国為替市場の機能維持と早期の機能回復を支援し、取引の混乱を市場全体として最小限に抑制するための市場レベルの「業務継続計画」を策定・運営する役割を担う。

II. 活動報告

- 2012 年度は、以下の活動を行った。
 1. 統一被災シナリオに基づく公表相場 BCP 策定依頼
公表相場業務を実施している参加者に対し、以下を目的として、統一被災シナリオに基づく BCP 策定およびアンケート回答を依頼。来年度にアンケート集計予定。
 - ・ 災害発生時の東京外国為替市場における予見可能性向上
 - ・ 東京外国為替市場および同市場参加者の危機対応実効性の向上
 - ・ 今後の当委員会における災害対策訓練への活用
 2. 三市場合同訓練の準備
 - ・ シナリオ・スケジュール等に関する短期金融市場・証券市場との事前調整、連携体制の確認。
 - ・ BCP 訓練参加者への訓練案内・BCP Web 登録 ID の事前整備。
 - ・ 四回目となる三市場合同訓練は、訓練参加者の要望を反映し、被災シナリオの一部ブラインド化を試行。今回の訓練結果・フィードバックを踏まえ、来年度に向けて BCP フロー改善を検討継続。
 3. その他
 - ・ 本年度より日銀サーベイ参加行となった金融機関のうち 11 社を BCP 事業参加者として新規追加。それに伴う外為 BCP Web アカウントの増加に対しては、業者契約の変更、BCP 関連規則の見直しを実施。
 - ・ Code of Conduct 小委員会のオレンジブック改訂作業に従い、オレンジブック記載の BCP 関連項目の見直しを実施。

III. 今後の課題

- 公表相場 BCP 策定作業後の各参加者アンケート結果等を踏まえた、BCP 態勢強化に向けた各種検討。
- 3 市場合同訓練アンケート結果を踏まえた、外為 BCP Web 改善等の検討。

以 上

E・コマース小委員会

I. 委員会概要

- E・コマース小委員会は、為替取引の電子化が進行する中、主に以下の項目につき議論・考察を行う役割を担う。
 1. 為替取引電子化の現状把握
 - ・ インターバンク取引および顧客取引の電子化の状況
 - ・ FX 取引（外為証拠金取引）動向の把握
 2. 取引の電子化が外国為替市場に与える影響
 - ・ 市場流動性、ボラティリティ、潜在リスク
 - ・ 取引環境、行動規範

II. 活動報告

- オレンジブック（Code of Conduct）の E コマース（電子取引）に関する記載内容の見直しについて、小委員会（計 3 回）を開催して議論を行い、ACI の「The Model Code」を参考に、改訂案を作成した。

第 1 回 2012 年 6 月 18 日

- ・ オレンジブック（E コマース関連部分）の改訂方針すり合わせ。
- ・ 記載内容をカテゴリー分けし、各委員に改訂案の作成を割り振り。

第 2 回 2012 年 7 月 23 日

- ・ カテゴリー毎に各委員が検討した改訂案をもとに対応方針を協議。

第 3 回 2012 年 8 月 29 日

- ・ 改訂案の完成に向けて、最終協議。

III. 今後の課題

- Code of Conduct 小委員会と協働し、E コマースに関する記載内容の改訂完了。
- アルゴリズムトレード等の電子取引の拡大による、市場流動性、ボラティリティへの影響や、リスクの所在を調査・把握。
- 外為証拠金取引が東京外国為替市場に与える影響の考察および市場の安定的な発展のための対応検討。

以 上

NDF 慣行整備小委員会

I. 委員会概要

- NDF 慣行整備小委員会は、東京市場活性化の観点から現行取引慣行が明確でない対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の標準化について、調査・検討を行い、市場慣行を推奨する事で安定した市場の整備に貢献する事を目的として活動した。
- 具体的には、対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法を市場慣行の自然発生的な収束に先んじて推奨するに当たり、本委員会綱要に照らし広くパブリックコメントを募集し、法律問題委員会の助けを得て推奨案を確定した後、東京外為市場委員会のホームページに推奨慣行として公示した。

II. 活動報告

- 本委員会での審議、法律問題小委員会との協議を踏まえ、小委員会の活動を進めた。
 - 1/5 投資信託協会にパブリックコメントの周知徹底の協力を依頼
 - 1/6 日本証券投資顧問業協会に同様の依頼
 - 3/16 本委員会にて、NDF 小委員会における最終案を報告
 - 6/27 本委員会にて、法律問題委員会で再検討された最終版が報告され、外為市場委員会のホームページに掲載する事が決定される
 - 7/24 外為市場委員会のホームページに推奨慣行覧を設け、市場参加者から寄せられた意見に対する回答と共に掲載を開始
 - 12/12 一定の成果を得たことで、対円 NDF 慣行整備小委員会は一旦解散

III. 今後の課題

- 当初の目的である「対円 NDF のフィキシング・レートの算出方法の取引慣行の推奨」の作業は終了し、プロジェクト委員会は解散した。しかし、推奨案にて「当該プラクティスは取引実態等の変化に照らして（中略）適宜見直しを行って参ります」としており、状況を定期的にモニターし、推奨内容の変更を検討する必要性は残っている。

以上

東京外国為替市場委員会委員等名簿(2013年1月30日)

<委員>

委員	役職	所属
星野 昭	議長	三菱東京 UFJ 銀行
梨本 忠彦	副議長	パークレイズ銀行
中野 北斗	副議長	みずほコーポレート銀行
齋藤 克仁	書記	日本銀行
塚田 常雅	委員	三菱 UFJ 信託銀行
好川 弘一	委員	クレディ・スイス証券
石川 昌信	委員	トウキョウフォレックス上田ハーロー
福島 亮一	委員	みずほ銀行
高木 晴久	委員	三井住友銀行
花生 浩介	委員	香港上海銀行
Joseph A. Kraft Jr.	委員	バンク・オブ・アメリカ
宗川 雄視	委員	トムソン・ロイター・マーケッツ
岩田 智宏	委員	ゴールドマン・サックス証券
大木 一寛	委員	EBS ディーリングリソースジャパン
今西 晋嗣	委員	三井住友信託銀行
大西 知生	委員	ドイツ証券
廣田 泰司	委員	JP モルガン・チェース銀行
大柿 敦郎	委員	野村證券

<準委員>

伊藤 祐介	準委員	マネーブローカーズアソシエーション
井出 穰治	準委員	日本銀行
筒井 慎一	準委員	みずほコーポレート銀行
森 直樹	準委員	三菱東京 UFJ 銀行

<オブザーバー>

飯塚 正明	オブザーバー	財務省
-------	--------	-----

(注) 敬称略(順不同)

<小委員会名簿>

常設小委員会	委員		所属
運営小委員会	委員長	塚田 常雅	三菱 UFJ 信託銀行
	副委員長	梨本 忠彦	バークレイズ銀行
		星野 昭	三菱東京 UFJ 銀行
		中野 北斗	みずほコーポレート銀行
		高木 晴久	三井住友銀行
		齋藤 克仁	日本銀行
		好川 弘一	クレディ・スイス証券
		伊藤 祐介	マネーブローカーズアソシエーション
		井出 穰治	日本銀行
		筒井 慎一	みずほコーポレート銀行
		森 直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		水柿 洋之	三菱 UFJ 信託銀行
広報小委員会	委員長	大木 一寛	EBS ディーリングリソースジャパン
	副委員長	齋藤 克仁	日本銀行
教育小委員会	委員長	大柿 敦郎	野村證券
	副委員長	石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケティング
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
法律問題小委員会	委員長	今西 晋嗣	三井住友信託銀行
	副委員長	塚田 常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		梨本 忠彦	バークレイズ銀行
		松原 道彦	三菱 UFJ 信託銀行
		今泉 康夫	みずほコーポレート銀行
		大寄 博明	三井住友銀行
		原田 和博	三菱東京 UFJ 銀行
		俣野 仁志	三井住友信託銀行
市場調査小委員会	委員長	中野 北斗	みずほコーポレート銀行
	副委員長	星野 昭	三菱東京 UFJ 銀行
		高木 晴久	三井住友銀行
		筒井 慎一	みずほコーポレート銀行
		大西 知生	ドイツ証券
		齋藤 克仁	日本銀行
		岩田 智宏	ゴールドマン・サックス証券
		Joseph A. Kraft, Jr.	バンク・オブ・アメリカ
		井出 穰治	日本銀行
		森 直樹	三菱東京 UFJ 銀行

常設小委員会	委員		所属
Code of Conduct 小委員会	委員長	大西 知生	ドイツ証券
	副委員長	筒井 慎一	みずほコーポレート銀行
		今西 晋嗣	三井住友信託銀行
		高木 晴久	三井住友銀行
		福島 亮一	みずほ銀行
		岩田 智宏	ゴールドマン・サックス証券
		齋藤 克仁	日本銀行
		森 直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		伊藤 祐介	マネーブローカーズアソシエーション
		水柿 洋之	三菱 UFJ 信託銀行
オペレーション 小委員会	委員長	福島 亮一	みずほ銀行
	副委員長	今西 晋嗣	三井住友信託銀行
		清家 麻紀	三井住友信託銀行
		石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		大木 一寛	EBS ディーリングリソースジャパン
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケット
		好川 弘一	クレディ・スイス証券
		平井 修史	みずほコーポレート銀行
		森 直樹	三菱東京 UFJ 銀行
		小河原 鉄也	三菱東京 UFJ 銀行
		黒住 靖	三井住友銀行
		坂入 秀輝	三井住友銀行
		土屋 潔	CLS
		水柿 洋之	三菱 UFJ 信託銀行
		松原 道彦	三菱 UFJ 信託銀行
		高橋 一行	みずほ銀行
	福永 一郎	日本銀行	

常設小委員会	委員		所属
BCP 小委員会	委員長	星野 昭	三菱東京 UFJ 銀行
	副委員長	兼平 修一	みずほコーポレート銀行
	副委員長	齋藤 克仁	日本銀行
		梨本 忠彦	バークレイズ銀行
		塚田 常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		水柿 洋之	三菱 UFJ 信託銀行
		福島 亮一	みずほ銀行
		高木 晴久	三井住友銀行
		篠永 健	三井住友銀行
		吉見 直	日本銀行
		福永 一郎	日本銀行
		大西 知生	ドイツ証券
	原田 和博	三菱東京 UFJ 銀行	
E・コマース小委員会	委員長	高木 晴久	三井住友銀行
	副委員長	梨本 忠彦	バークレイズ銀行
		齋藤 克仁	日本銀行
		有我 建彦	みずほコーポレート銀行
		松原 陽一	三菱東京 UFJ 銀行
		廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		綿林 寛資	三井住友銀行
		大木 一寛	EBS ディーリングリソーシスジャパン
		松井 哲夫	金融先物取引業協会
		松田 明博	ゴールドマン・サックス証券
		大西 知生	ドイツ証券
	蒲谷 淳二	ドイツ証券	

プロジェクト小委員会	委員		所属
NDF 慣行整備 小委員会	委員長	廣田 泰司	JP モルガン・チェース銀行
		大木 一寛	EBS ディーリングリソースシスジャパン
		鈴木 保匡	三井住友銀行
		大西 知生	ドイツ証券
		寺田 八大	ドイツ証券
		加辺 猛	みずほコーポレート銀行
		石川 昌信	トウキョウフォレックス上田ハーロー
		梨本 忠彦	バークレイズ銀行
		塚田 常雅	三菱 UFJ 信託銀行
		宗川 雄視	トムソン・ロイター・マーケット
		本間 仁	トムソン・ロイター・マーケット
		平井 邦行	三菱東京 UFJ 銀行

(注) 敬称略(順不同)